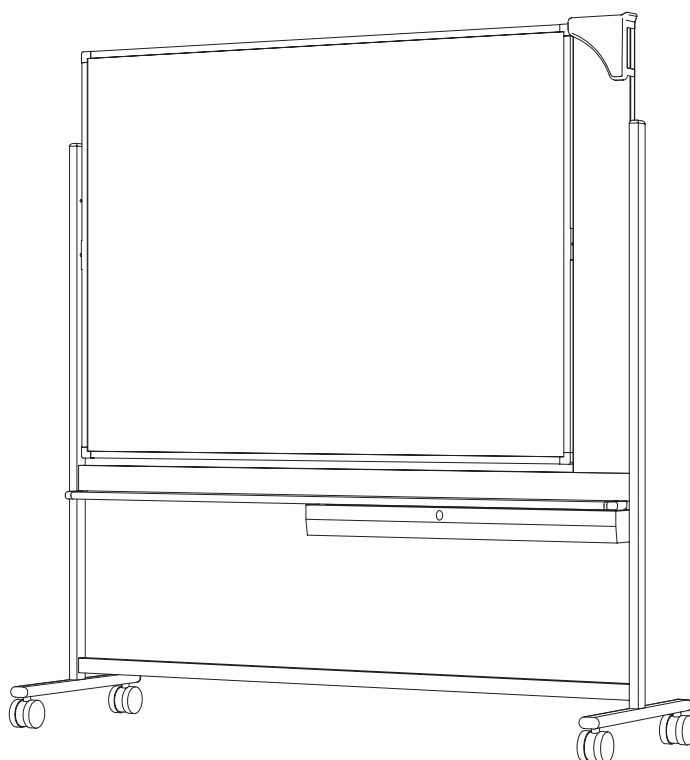
UCHIDA

T839—01008A

取扱説明書

電子情報ボード

インタラクティブボード IB-72

ご使用になる前に、この『取扱説明書』をよくお読みください。また、いつでもお読みになれるように保管場所を決めて、大切に保管してください。

株式会社 内田洋行

目　次

安全上の注意　～安全のために必ずお読みください～

本機を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するために守っていただきたい事項を示しています。以下の表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。

本書に記載する記号について

 警告　誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 注意　誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性、または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

表示の例

 禁止　⃠ 記号は禁止行為であることを告げるものです。図中や近傍に具体的な禁止内容（左図記号の場合は分解禁止）が描かれています。

 指示　● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図のなかには具体的な指示内容（左図記号の場合は電源プラグをコンセントから抜くこと）が描かれています。

本機を安全にお使いいただくために以下の内容をお守りください。

⚠ 警　告

- 機器の分解、改造は絶対におこなわないでください。感電や火災のおそれがあります。

- 電池の取り扱いを誤ると火災や人体への傷害の原因、破損してけがや周囲の汚染の原因となります。
  - ・電池は子供の手の届かないところに保管してください。万一、飲み込んだりした場合はすぐに医師に相談してください。
  - ・電池を火や水の中に入れないでください。火気、高温、湿気を避け、暗く涼しく乾燥した場所に保管してください。
  - ・電池に衝撃を加えたり、傷つけたりしないでください。
  - ・交換電池を入れるときは、極性表示に注意して正しく入れてください。
  - ・電池が液漏れした場合は、漏れ液を布などで拭き取って新しい電池に交換してください。漏れ液には直接触れないでください。皮膚や衣服に付いてしまった場合は水でよく洗浄してください。

⚠ 注　意

- もたれかかったり、ぶらさがったり、上に乗ったりしないでください。
  けがや破損の原因となります。

- 板面を回転させる場合は手を挟まないように注意してください。けがの原因となります。
- 平な場所で使用してください。それ以外の場所で使用しますと転倒し、けがや破損の原因となります。
- 移動の際は、横方向から押すようにし、段差等の乗りこえには注意してください。
  転倒し、けがや破損の原因となります。
- 使用中にねじの緩みによるガタツキや揺れが生じた場合は、ねじの締め直しを行ってください。
  ガタツキや揺れが生じた状態で使用されますとけがや破損の原因となります。

取扱上の注意　～安全のために必ずお読みください～

■お願い

本機に強い衝撃をあたえない

・機器障害の原因となります。

暑い場所（35°C 以上）や寒い場所（10°C 以下）には置かないでください

・誤動作の原因となります。

専用のマーカー以外を使用しないでください

・書いた文字、線が消えなくなります。

無線機器（テレビ・ラジオなど）の近くに置かないでください

・ラジオ・テレビジョン受信機能等に受信障害を与えることがあります。

商標について

eBeam 、eBeam Mouse は、Luidia, Inc. の商標です。
IBMは、米国 IBM Corporation の商標です。
Excel、Internet Explorer、Microsoft、PowerPoint、Windows、Word は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。
その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

特　長

パソコンと接続することにより、ボード上でパソコン画面の操作をしたり、記録を保存することができます。ボードを回転させることによってホワイトボードモードとプロジェクションモードの使い分けができます。

■ ホワイトボードモード

ホワイトボードに書き込んだ文字や図形をインタラクティブボードに接続されたパソコンにリアルタイムに取り込めます。取り込んだ情報はパソコン上で表示、編集、保存、印刷が可能です。メモをとる煩わしさがありませんので会議に集中できます。

■ プロジェクションモード

パソコン画面をデータプロジェクターでインタラクティブボードに投影してワープロや表計算などのアプリケーションを専用のスタイラスペンを使って、ボード面で操作できます。プロジェクションモードではプロジェクター専用スクリーンを採用し不快な反射のない、効果的なプレゼンテーションが実現できます。

■ ネットワークミーティング

ミーティングに参加するには同室にいる必要はありません。ネットワークを介して参加できます。

■ プレイコントロール

書き込んだ内容の推移を後で確認することができます。

■ サムネイル表示

全ての画面を表示することができます。

■ 背景への各種データの取り込み

背景画像として以下のファイル形式がサポートされています。

- ビットマップ（*.bmp）
- グラフィックファイル（*.gif、*.jpg、*.ico、*.emf、*.wmf）
- Excel スプレッドシート（*.xls）
- PowerPoint プレゼンテーション（*.ppt）
- Word ドキュメント（*.doc、*.rtf）

■ ミーティングの別名保存

ミーティングの別名保存または送信用に、多彩なファイル形式がサポートされています。
（*.wbd,　*.PDF,　*.HTM,　*.BMP,　*.EPS,　*.JPG,　*.TIF,　*.emf,*.ppt,　*.pps）

■ Web　ツアー

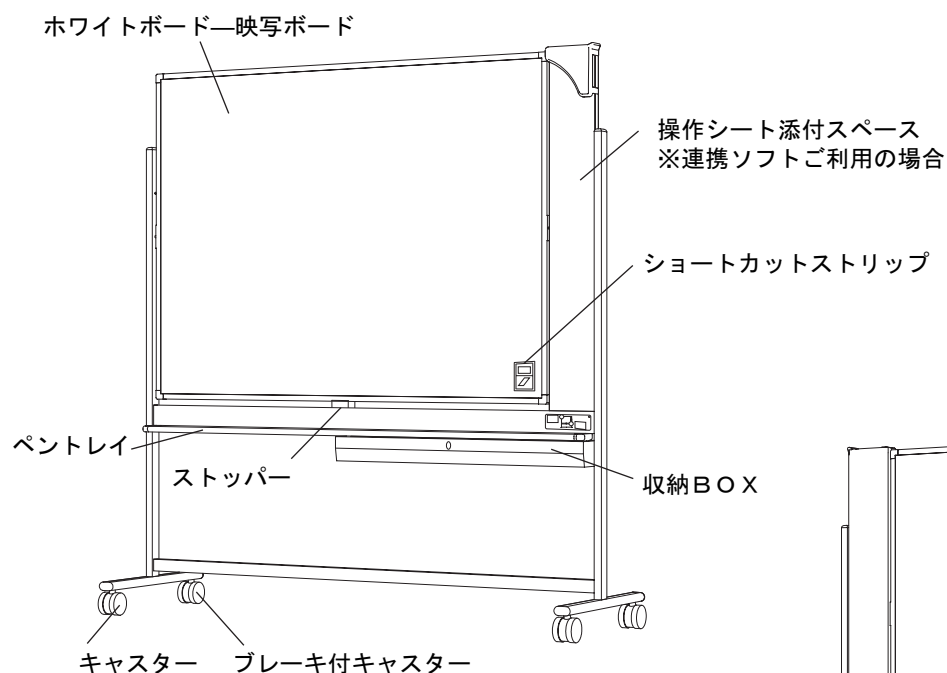
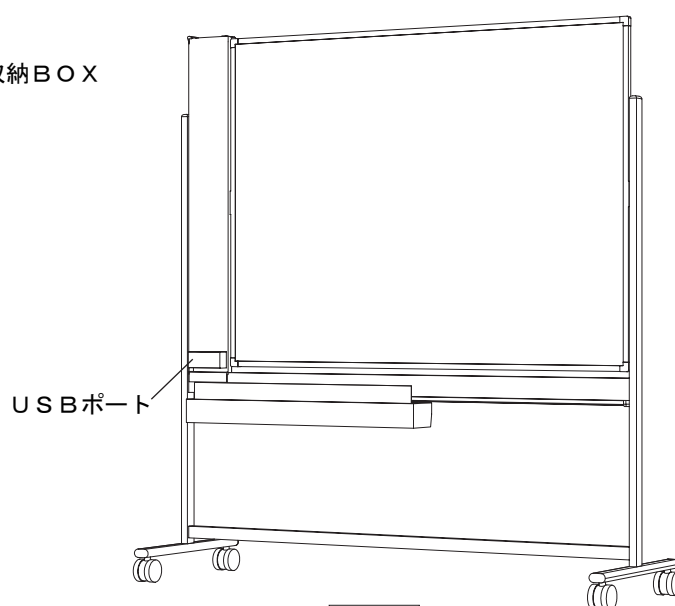
eBeam ソフトウェアのWeb ビュー機能を使用すると、eBeam ソフトウェアのミーティングアプリケーションからインターネットのWeb ページにアクセスできます。

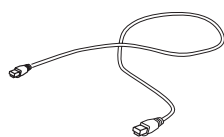
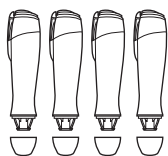
■ 収納ＢＯＸ

鍵付きの収納ＢＯＸにより、付属品の管理ができますので移動時や保管時の紛失を防ぐことができます。

Luidia、Inc. 製のeBeam ソフトウェアを使用しております。

各部のなまえ

本　　体

梱包品の確認

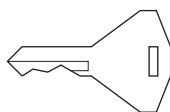
下記のものが同梱されているかお確かめください。
万一足りないものがあった場合は、販売店またはウチダコールセンターまでお問い合わせください。

USBケーブル（5m）

マーカホルダーとキャップ

イレーザ

マーカ4色パッケージ

マウスペン
（スタイラスペン）

ショートカット
ストリップ

ボタン電池
（10個）

収納キー（２コ）

ソフトウェアCD

取扱説明書
保証書

インタラクティブボードの使い方

■設置に際してのご注意

直射日光のあたる場所でのご使用は避けてください。変色や変形の原因になります。
製品は水のかかる所や、湿度の高い場所での使用は避けてください。さびや変色、変形の原因になります。

■使用方法

ホワイトボード面は専用マーカーをご使用ください。
映写ボード面は、マーカ等の筆記用具を絶対に使用しないでください。
板面は、ストッパーを押えることにより回転させ、両面がご使用になれます。

■使用条件

ミーティングに参加するには、Webブラウザ (Microsoft Internet Explorer v4J以降、またはNetscape Navigator v4J以降）が必要です。

- 以下の条件を満たすWindows対応コンピュータ (Windows98/ME/XP/2000)
  他のプラットフォームでも、Java対応ブラウザのJavaTMアプレットを通して、共有ミーティングを表示できる場合もあります。
  - ・100MHz以上のPentium プロセッサ搭載のPC/AT互換機
  - ・USBポート
  - ・32MB以上のRAM、12MB以上のハードディスク空き容量
  - ・256色のVGAまたはSVGAモニタ
  - ・CD-ROMドライブ（インストール用）
  - ・インターネット接続（共有ミーティングへの参加用）

  ※CPU、メモリ環境は当該OSが稼動していることが前提となります。またメモリが少ない場合、一部の機能に制限があります。

- ネットワーク接続
  TCP/IPプロトコル使用のイーサネットネットワーク接続、および各コンピュータ用に有効なIPアドレスが必要です。

- プリンタ（ミーティング描画の印刷用）

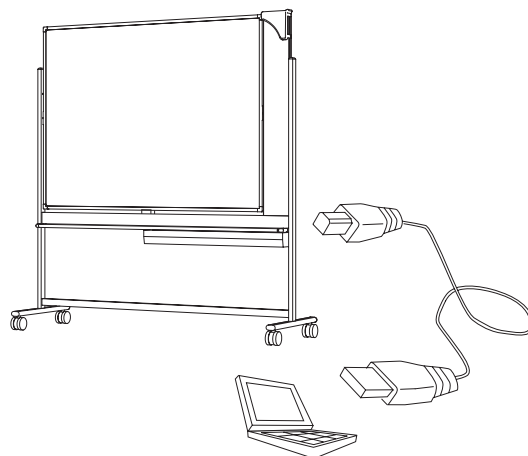
- 消耗品
  専用マーカ
  リチウムボタン電池CR2032
  イレーザパット

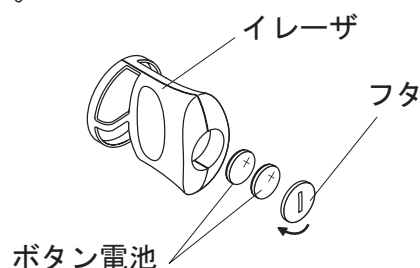
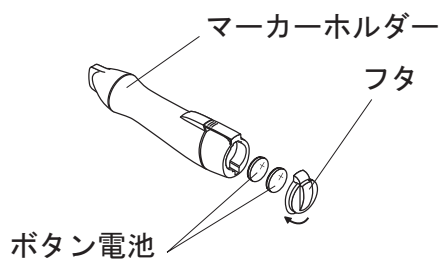
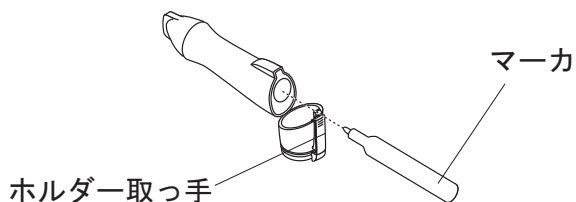
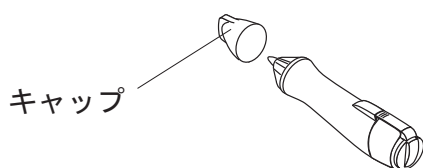
準　備

■ホワイトボードモードをご利用になる場合

ボードとコンピュータの準備

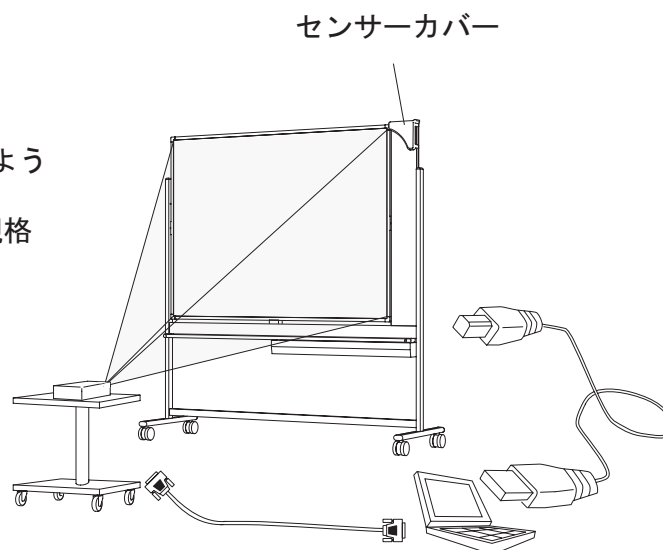
1. ボードをホワイトボード面にします。
2. ＵＳＢケーブルの一端（Ｂタイプコネクタ）をボードのＵＳＢポートに差し込みます。
3. ＵＳＢケーブルの他端（Ａタイプコネクタ）をコンピュータのＵＳＢポートに差し込みます。

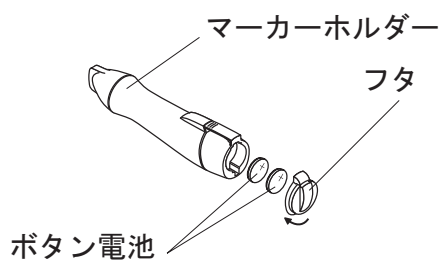
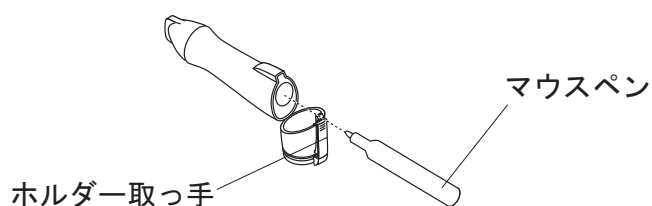
※本機とコンピュータとの間にＵＳＢ2.0規格のハブを接続しないでください。

マーカとイレーザの準備

1. マーカホルダー、イレーザのフタを回して開け、ボタン電池を２枚、プラス（+）の面をフタ側に向けて挿入し、フタを閉じます。

2. ホルダー取っ手を押し、マーカ挿入部を開きます。マーカのキャップを取り外し、同一色のホルダーにマーカを挿入します。

3. マーカをすぐに使用しない場合は、キャップをかぶせます。

■プロジェクションモードをご利用になる場合

ボードとコンピュータ、プロジェクタの準備

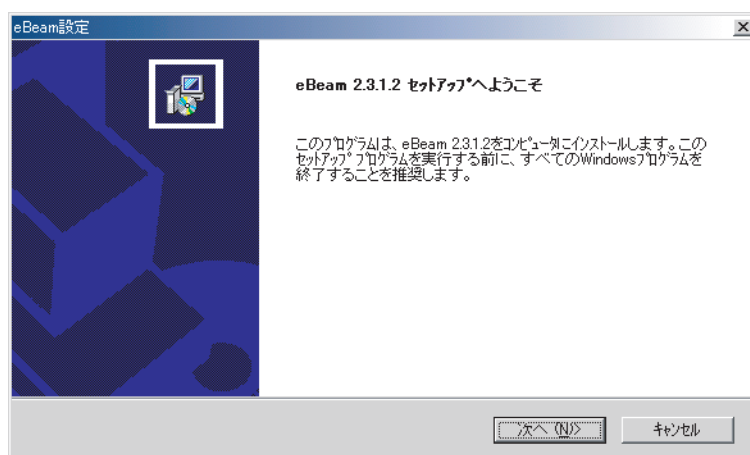
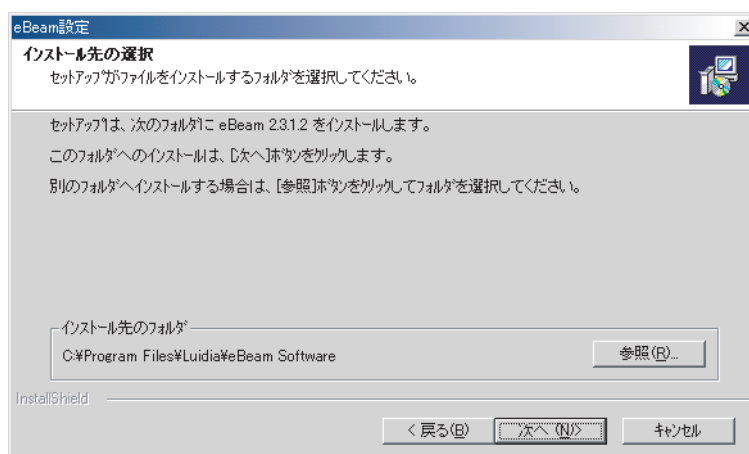
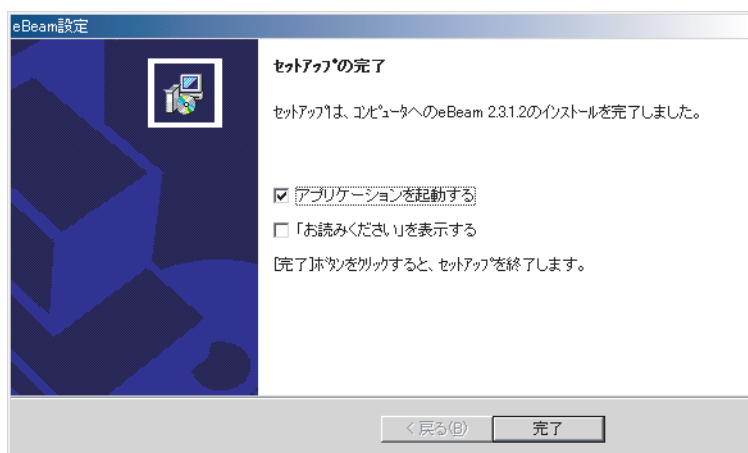
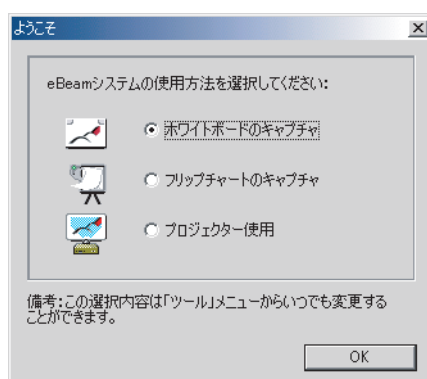
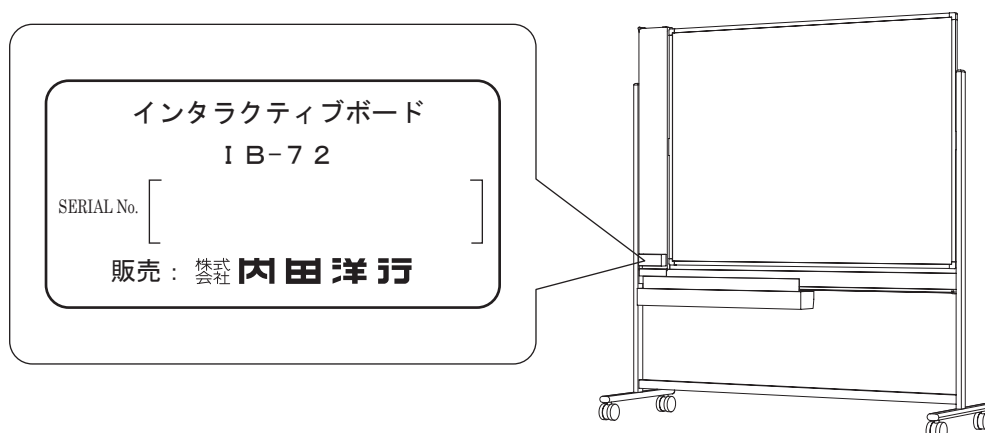
1. ボードを映写ボード面にします。
2. ＵＳＢケーブルの一端（Ｂタイプコネクタ）をボードのＵＳＢポートに差し込みます。
3. ＵＳＢケーブルの他端（Ａタイプコネクタ）をコンピュータのＵＳＢポートに差し込みます。
4. コンピュータとプロジェクタをＶＧＡケーブルなどの映像ケーブルで接続します。画像を投影し、プロジェクタを調節します。

※投影画像はセンサーカバーにかからないよう位置を合わせます。
※本機とコンピュータとの間にＵＳＢ2.0規格のハブを接続しないでください。

マウスペンの準備

1. マーカホルダーのフタを回して開け、ボタン電池を２枚、プラス（+）の面をフタ側に向けて挿入し、フタを閉じます。

2. ホルダー取っ手を押し、マーカ挿入部を開きます。マウスペンを挿入します。

■ソフトウェアのインストール

接続コンピュータには、eBeam ソフトウェアをインストールしておく必要があります。

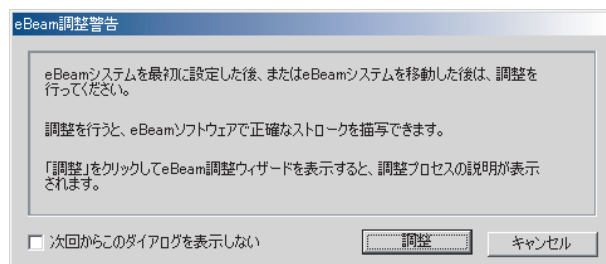
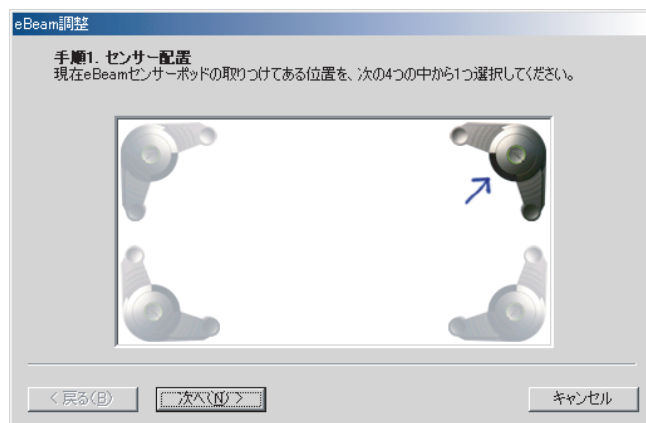
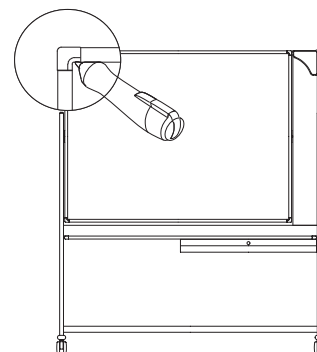
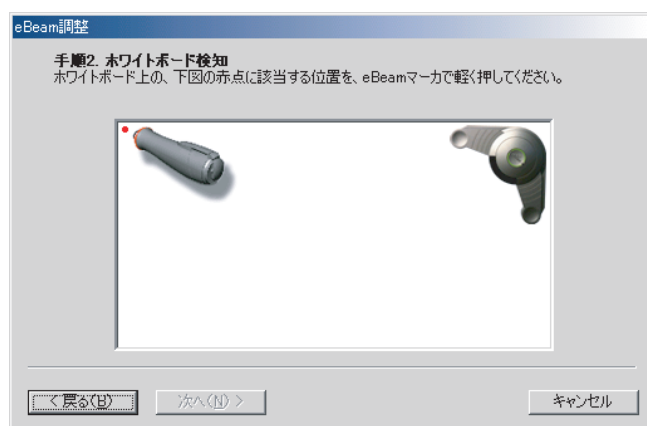
注意: ソフトウェアをインストールするには 12MB のディスク容量が必要です。

1. eBeam ソフトウェア CD をコンピュータに挿入します。
2. セットアップへようこそを「次へ」をクリックします。

3. 使用許諾契約を読み、「はい」をクリックします。
4. eBeam ソフトウェアのインストール先ディレクトリを指定し、「次へ」をクリックします。

5.　「完了」をクリックしてください。

6.　インストールの完了をすると、使用方法の選択画面になります。
使用方法を選択して「OK」をクリックします。

7.　インターネットに接続している場合、自動的にユーザー登録ページが開きます。
登録作業を行い、インストール終了です。
※ユーザー登録番号は本機背面に貼られています。
※登録は「ヘルプ」メニュー登録でも可能です。

ソフトウェアを更新するには、当社サイト(www.uchida.co.jp)を利用するか、
または「ヘルプ」メニューで「ソフトウェア更新」を選択します。

■調整方法

キャプチャエリア調整

画面右下タスクトレイのeBeamアイコン をクリックし、使用方法を選択します。
ホワイトボードモード・・・・「eBeam Softwareを開く」
プロジェクションモード・・・「プロジェクター使用」

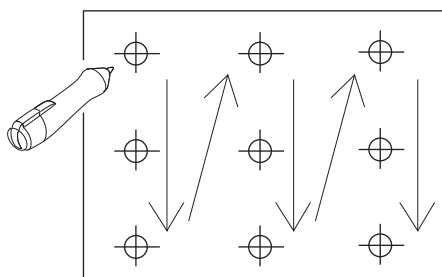
1. eBeam 調整警告が表示されます。「調整」をクリックします。

2. センサー配置について右上を選択し、「次へ」をクリックします。

3. ボード左上隅を専用マーカで押します

4. 本体右下（操作シート添付スペースの下）の手順シールの「・」を専用マーカで押します。

手順シール

5. エリア範囲を確認し、「終了」をクリックします。

投影エリア調整

6. プロジェクションモードの場合以下ダイアログが表示されます。
「はい」をクリックします。

7. ボードに投影された赤のマークの中心を専用ペンで左上から押します。

・eBeamアイコン

インストールが終了しますと画面右下のタスクトレイに生成されます。

・キャプチャエリアを変更する場合

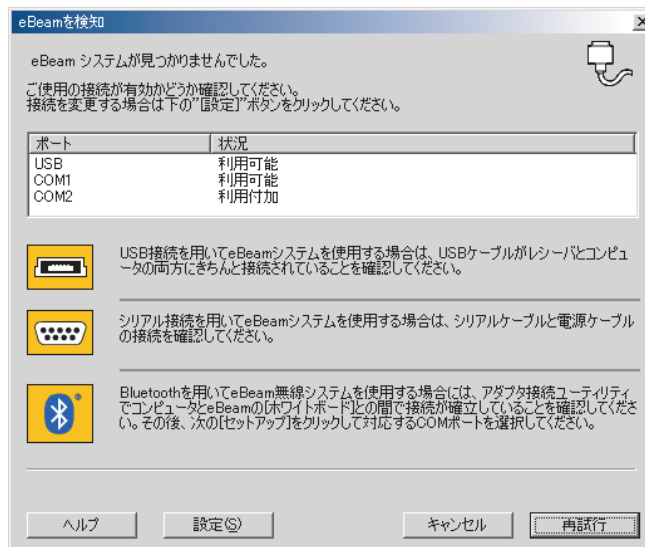
eBeamアイコン をクリックして「キャプチャエリアの調整」を選択してください。

・投影エリアを変更する場合

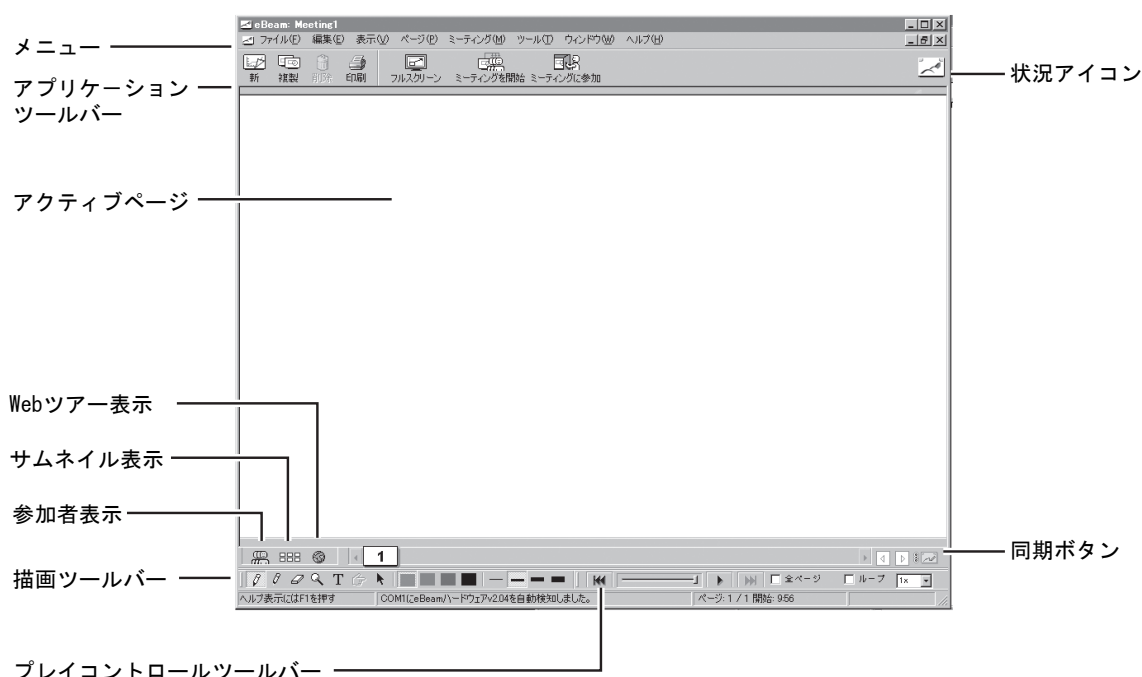
eBeamアイコン をクリックして「投影エリアの調整」を選択してください。

・eBeam検知

eBeamが検知されませんと、「eBeam検知」ダイアログボックスが表示されます。
コンピュータと本機のＵＳＢケーブルの接続を確認してください。

「eBeam検知」ダイアログボックス

使い方

■ eBeam ソフトウェアの使い方

主にホワイトボードモードや保存、データの確認、加工、共有（ネットワークミーティング）の際に利用します。

eBeam ソフトウェアのユーザインターフェイスには、 以下のコンポーネントが含まれています。

メニュー............ eBeam ソフトウェア の全機能へのアクセスはここからできます。背景の各種データの取り込みは、ページ（P）から行うことができます。ページメニューから背景画像を選択します。

アクティブページ.... ホワイトボード上の描画がここに表示されます。新しい描画は、最新ページにのみ記録されます。

サムネイル表示...... ミーティング中に記録されたページ全てを、サムネイルで表示します。

参加者表示.......... ミーティング参加者のログイン名の表示、および参加者間でのチャットがここでできます。

状況アイコン........ 右クリックで、ホワイトボードモード、投影モード（プロジェクションモード）システム接続解除を切り替えます。

同期ボタン.......... ミーティング主催者は全参加者の表示ページを主催者と同一に設定できます。

以上のコンポーネントの詳細については、eBeam ソフトウェア の「ヘルプ：トピックの検索」を参照してください。

アプリケーションツールバー

新 .... アクティブページをメモリに保存し、新ページをコンピュータ画面に表示します。

複製 .... ミーティングの最後に選択したページと同一のページを加えます。

削除 .... 選択ページを削除します。

印刷 .... 選択ページを印刷します。

フルスクリーン ...... eBeam ソフトウェア の画面を最大のサイズで表示します。ホワイトボードの表示を最大にするために、メニューバーおよび状況バーを隠します。

ミーティングを開始 . eBeam ソフトウェア の「ミーティングを開始」ダイアログボックスを表示します。

ミーティングに参加 . eBeam ソフトウェア の「ミーティングに参加」ダイアログボックスを表示し、参加するミーティングを選択できます。

注意 .... ミーティングの開催中は主催者のコンピュータからのみ「新」、「複製」、「削除」ボタンを使用できます。

描画ツールバー

描画ツールバーには以下のツールがあります。

マーカ...............マーカで手書きする場合に使用します。

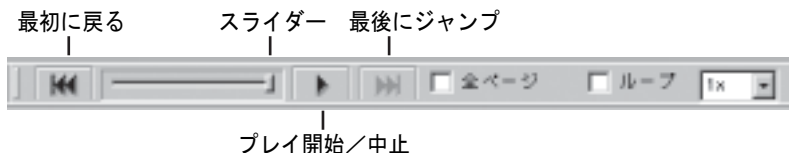
ハイライタ.......... 透明インクで手書きする場合に使用します。

イレーザ............ ボードから入力された描画および編集ツールで追加された描画/テキストを消去します。

ズーム.............. ページを拡大縮小表示するにはズームツールをクリックし、メイン画面の該当箇所をクリック、またはドラッグします。縮小表示するには、Shift キーを押しながら該当箇所をクリック、またはドラッグします。

テキスト............ コンピュータで使用可能なフォント、サイズ、カラーを指定してテキスト文を追加できます。

ポインタ............ ミーティングウィンドウ内のデータをポイントします。各参加者のポインタは異なるカラーで表示されます。ポインタツールは、共有ミーティングのみで使用できます。

セレクタ............ 長方形の範囲を指定して、その部分を他のアプリケーションにコピーする場合に使用します。

プレイコントロールツールバー

プレイコントロールツールバーには以下のツールがあります。

プレイコントロール.. ペ ージ上の描画ストロークの推移を表示します。プレイ中の変更内容は保存されません。

最初に戻る.......... マーカで描画を始める前の状態にページを戻します。

最後にジャンプ...... ペ ージの最後の状態を表示します。

プレイ開始／プレイ中止... 描画ストロークの推移を表示します。プレイ中はプレイ中止ボタンとなり、ボタンを押すことによって、描画推移の表示を中止します。

スライダー.......... ドラッグすることによって、描画ストロークの推移を表示します。

全ページ............ ミーティングの最初から最後まで、全ページの推移を表示します。

■ホワイトボードモードでの使い方

板面がホワイトボード側にセットされている事を確認します。
ホワイトボードモードの準備についてはP8を参照してください。

1. eBeamソフトウェアを起動します。eBeamアイコンをクリックし、「eBeam Software を開く」を選択します。

2. 専用マーカを使い、実際にホワイトボードに書き込みを行ないます。書いた内容がリアルタイムにコンピュータの画面にも表示されます。書き込んだ文字を消す際には専用イレーザを使用します。（専用のイレーザを使って消さないと、書き込んだ文字はボード上からは消えますが、コンピュータ画面には残ります。）

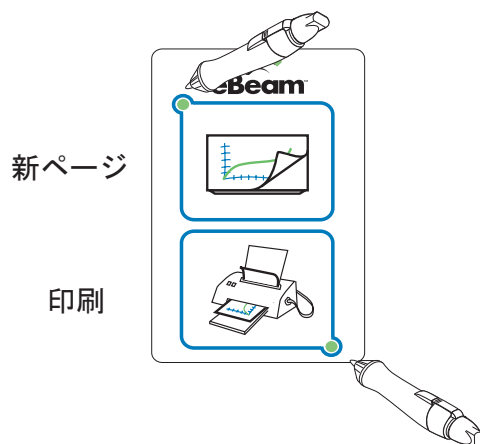
※ボードに書き込んでもコンピュータ画面に反映されない場合
・「ツール」メニューから「eBeam Hardware：ホワイトボードのキャプチャ」を選択します。
・「ツール」メニューから「eBeam Hardware：検知」を選択します。

ショートカットストリップ
ショートカットストリップを使用すると「新ページ」「印刷」の機能を専用マーカで指示できます。

1. ショートカットストリップを台紙からはがしボード内に貼り付けます。

2. 「ツール」メニューから「ショートカットストリップ：調整」を選択します。

3. ショートカットストリップの左上角の○印と右下角○印を専用マーカで押します。

設定終了です。枠内をマーカで押すだけで新ページを開始したり印刷を指示できます。

■プロジェクションモードでの使い方

板面が映写ボード面にセットされていることを確認します。
プロジェクションモードの準備についてはP9を参照してください。

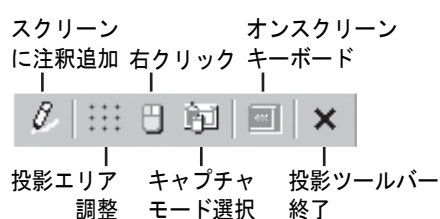
1. eBeamアイコンをクリックし、「プロジェクター使用」を選択します。マウスペンを使ってボード上でマウスの操作ができるようになります。

※マウスペンでマウスが操作されない場合
・eBeamアイコンをクリックし、「システム検知」を選択します。

2. 投影エリアの調整を行ないます。eBeamアイコンをクリックし、「投影エリア調整」を選択します。ボードに投影された赤のマークの中心を専用ペンで左上から押します。（詳細はP13を参照してください。）

3. マウス操作以外にも、ボード上に書き込みもできるようになります。

タスクバーの投影モードアイコンを右クリックして投影ツールバーを選択します。投影ツールバーが表示されます。

スクリーンに注釈追加　右クリック　オンスクリーンキーボード
投影エリア調整　キャプチャモード選択　投影ツールバー終了

投影ツールバー

スクリーンに注釈追加 .. スクリーン注釈追加用のツールバーを開きます。そのツールバー上のツールを使用し、コンピュータのデスクトップに注釈を付けます。

投影エリア調整 ...... 投影モード用調整ウィザードを開きます。

右クリック .... 右クリックボタンをタップします。次に電子ペンでホワイトボードをタップすると、右クリック機能の動作を行います。

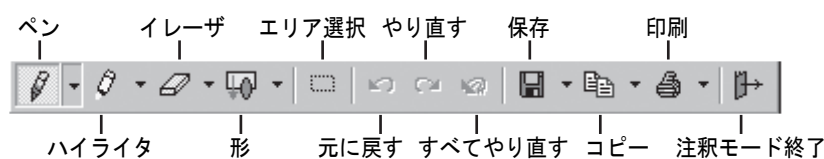
キャプチャモード選択 .. キャプチャモード選択用メニューを表示します。

オンスクリーンキーボード ... 投影モードで使用するオンスクリーンキーボードを開きます。

注意：この機能は、オンスクリーンキーボードがオペレーティングシステムでサポートされ、かつ使用可能になっている場合のみサポートされます。

投影ツールバー終了 .. 投影ツールバーを終了します。eBeamソフトウェアは投影モードのままです。

ペン イレーザ エリア選択 やり直す 保存 印刷

ハイライタ 形 元に戻す すべてやり直す コピー 注釈モード終了

スクリーン注釈ツールバー

ペン .... デスクトップにフリーハンドで注釈付けができます。ペンツール横の矢印をクリックすると、ペン用オプションパレットが開き、ペンカラー、線幅、スムーズラインを選択できます。

ハイライタ .... デスクトップにフリーハンドでハイライト付けができます。ハイライタツール横の矢印をクリックすると、ハイライタ用オプションパレットが開き、ハイライタカラー、線幅を選択できます。

イレーザ............ スクリーン注釈付けツールバー上のツールを使用して付けた注釈を、デスクトップから消去できます。イレーザツール横の矢印をクリックすると、イレーザ用オプションパレットが開き、イレーザのサイズを選択できます。

形 .... デスクトップに数種類の基本図形（円、長方形、矢印など）を描けます。図形ツール横の矢印をクリックすると、図形用オプションパレットが開き、カラー、線幅、スムーズライン、図形を半透明にするかどうかを選択できます。

エリア選択 .... デスクトップにエリア選択用の長方形を描きます。この長方形で囲まれたエリアは、スクリーン注釈付けツールバー上のツールを使用して保存、コピー、印刷できます。

元に戻す .... 前に付けた注釈を消去します。このオプションは、すべての注釈が消去されるまで使用可能です。

やり直す .... 直前に元に戻した注釈付けをやり直します。

すべて元に戻す/やり直す... 直前に付けたすべての注釈を元に戻すか、直前に元に戻したすべての注釈付けをやり直します。

保存 .... デスクトップ全体、またはデスクトップ上の選択エリアをビットマップファイルに保存します。

クリップボードにコピー...デスクトップ全体、またはデスクトップ上の選択エリアをオペレーティングシステムのクリップボードにコピーします。クリップボードにコピーされたデータは、ペイントアプリケーションやWordなどのアプリケーションに貼り付けられます。

印刷 .... デスクトップ全体、またはデスクトップ上の選択エリアを指定プリンタに印刷します。このオプションを使用するには、あらかじめオペレーティングシステム上でプリンタを設定しておく必要があります。

注釈モード終了 ...... スクリーン注釈付けモードを終了し、eBeamソフトウェアを標準の投影モードに戻します。終了する前に、すべての注釈が消去されることを通知するメッセージが表示されます。必要に応じて「いいえ」をクリックし、保存、クリップボードにコピー、印刷などのツールを使用して注釈の処理をしてください。

■ネットワークミーティングの使い方

ミーティングの主催と参加

eBeam ミーティングに参加するには同室にいる必要はありません。ネットワークを介して参加できます。ネットワークミーティングを主催する場合は、ミーティングサーバが必要です。社内LAN /イントラネットでネットワークミーティングを開催する場合は、 サーバとしてローカルコンピュータ（eBeam ハードウェアの接続されたコンピュータ）を使用できます。社外も含めてインターネットで世界中の参加者が参加できるネットワークミーティングを開催する場合は、インターネット用サーバが必要です。EFI ではこのサーバを提供しています。

● ミーティングを開始

1. eBeam ソフトウェアを起動します。

2. 「ミーティング」メニューから「ミーティングを開始」を選択します。

3. 「サーバ情報」欄でミーティング主催サーバを選択します。
   主催者のコンピュータまたはeBeam ミーティングサーバを選択できます。eBeam ミーティングサーバのプルダウンメニューには、「eBeamサーバ」　および以前一覧に追加したサーバ名が表示されます。この欄にサーバ名を追加するには右側のアイコンをクリックします。

4. ミーティング名と主催者名を入力します。
   ユーザがミーティングに参加する際に、この「ミーティング名」で参加ミーティングを選択します。このダイアログボックスで名前を変更するまで、同一名が使用されます。ミーティング名は半角英数字 20 バイトまで入力可能です。

5. 全ネットワークユーザにミーティング名を公開する場合は、「ミーティング名を公開」を選択します。
   ミーティング名を公開しない場合、「ミーティングに参加」ダイアログボックス内のミーティング名一覧にこの名前が表示されません。このためミーティング参加者はミーティング名をあらかじめ入手し、入力する必要があります。

6. パスワードが必要な場合は「パスワード使用」を選択し、パスワードを入力し、確認用に同一パスワードを入力します。
   パスワードは半角英数字 20 バイトまで入力可能です。

7. 参加者にミーティング名、ミーティングの時間、およびパスワード（必要な場合）を知らせます。

8. 「開始」をクリックします。
   指定ミーティングサーバでネットワークミーティングが始まり、参加可能になりました。

● ミーティングの実施

リモート参加者は、eBeam ソフトウェアまたはWeb ブラウザを使用して、ミーティングに参加、発言が可能です。デフォルトでは、リモートeBeam参加者はどのページにも描画、ハイライト、テキストの追加が可能です。ミーティングの主催者は、全員または個々の参加者に対して、これらの機能の使用を制限できます。
これらの追加情報はどの参加者のモニタ上にも表示されます。
Web参加者も、描画、ハイライト、テキストの追加をするツールにアクセスできます。

1. ミーティングの開始直前、またはミーティング中に、「表示」メニューから「参加者」を選択すると、ネットワーク上の現参加者のリストが表示されます。
   画面左下の参加者アイコン をクリックして表示することもできます。

2. 参加者画面を開いたままにしておくには、「表示」メニューで「参加者をフロート表示」を選択、または参加者アイコンをウィンドウの外側にドラッグします。
   「ミーティング」メニューから「参加者 : 識別情報」を選択すると、いつでも、参加者名、役割、および接続に関する情報を表示できます。

3. 「ミーティング」メニューから「主催者と同一ページ表示」を選択すると、主催者のアクティブページが、参加者の画面でのアクティブページとなります。
   この機能を使用すると、ミーティングに途中参加したユーザも、主催者と同じページを見ることができます。主催者が他のページをアクティブにすると、全ての参加者の画面で、同一ページがアクティブページとなります。
   この機能が選択されている場合、参加者は、ページ選択のツールを使用できません。

4. 「参加者」画面で、参加者名を右クリックし、「識別情報」を選択すると、参加者情報を表示することができます。

5. 試しに少し書いてみてから、接続コンピュータのeBeam ソフトウェア画面上にそれらが正しく表示されることを確認します。

6. 参加者名を右クリックし「表示のみに設定」を選択すると、その参加者だけ書き込みできないように設定可能です。

7. 「全参加者を「表示のみ」に設定」を選択すると、eBeam参加者全員の書き込みを禁止できます。
   「ミーティング」メニューから「参加者 : 全参加者を「表示のみ」に設定」を選択することもできます。

8. 参加者名を右クリックし「参加停止」を選択、または「ミーティング」メニューから「参加者 : 参加停止」を選択すると、特定の参加者をミーティングの続きから除外できます。

9. ホワイトボードで、書いたり、消したり、新ページを作成したりなどの作業を続けます。

10. ミーティングが完了したら、「ファイル」メニューから「保存」 または「別名で保存」を選択します。

11. 「ファイル」メニューから「終了」を選択します。
リモート参加者のミーティングサーバへの接続が解除されます。各 eBeam ソフトウェアユーザは、ローカルディスクにミーティングを保存しておき、後で編集および印刷することが可能です。

● ミーティングに参加

eBeam ソフトウェアまたは Web ブラウザを使用してミーティングに参加できます。
サーバ設定
ミーティングサーバの追加
ミーティング参加時に、ミーティングサーバを選択する必要があります。参加のつどサーバ情報を入力できますが、頻繁に使用するサーバの情報を一覧に登録しておいて、参加時に一覧からそのサーバを選択することもできます。

ミーティングサーバを一覧に追加するには：

1. 「ミーティング」メニューから「ミーティングを開始」または「ミーティングに参加」を選択します。

2. 「サーバ情報」欄、または「ミーティング主催サーバを選択」欄の右側のアイコンをクリックします。

3. 「ミーティングサーバ」ダイアログボックスで「追加」をクリックします。

4. サーバ名、その DNS 名または IP アドレス、およびポート番号を入力し、 「OK」をクリックします。
デフォルトのポート番号は「80」です。サーバ一覧にこのサーバ情報が表示されます。

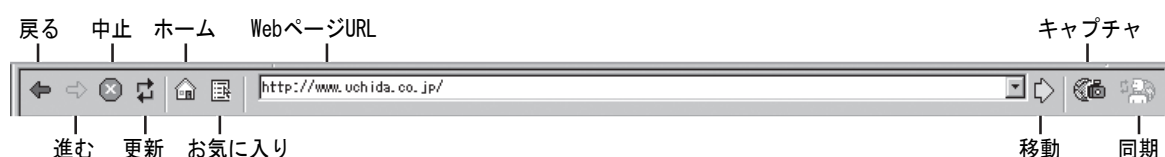
5. 「閉じる」をクリックします。

● ミーティング参加者とのチャット

ミーティング参加者は、ミーティング中に他の参加者とチャットすることができます。

■ Web ツアー

ミーティングアプリケーションからインターネットのWebページにアクセスできます。 この機能は、一旦Webページを背景画像としてロードすると、注釈ツールを使用して注釈付けできるため、プレゼンテーション資料の作成に大変便利です。

Web ツアー表示をクリックしてください。アプリケーションツールバーの下にWeb ツアーツールバーが表示されます。

Webツアービューツールバー

戻る ....直前に表示したWeb ページを表示します。

進む .... 戻るボタンをクリックする前に表示したWebページを表示します。

中止 ....Web ページのロードを中止します。

更新 ....現在のWeb ページを再ロードします。

ホーム...............ホームページを開きます。ホームページを設定変更するには、「編集」メニューから「設定 : Web ツアー」を参照してください。

お気に入り .... お気に入りに指定したWeb サイトを表示します。アドレスは（W indows のみ）「お気に入り」ディレクトリから表示されます。

＜Web　ページURL＞.. Webページのurlをプルダウンリストで表示します。　新しいWebページに行くには、新URL を入力するか、プルダウンリストからURL を選択し、「移動」をクリックします。

キャプチャ .... Web　ツアー表示に現在表示されているWeb ページのスナップショットを撮り、新ミーティングページの背景としてロードします。

移動 ....Web　ページURL のプルダウンリストにあるWeb ページ移動し、開きます。

同期 ....参加者を同期し､現在のWebページを表示するように設定します。

トラブルシューティング

接続と電源に関する問題

eBeam メッセージ	対　　策
「eBeam検知」ダイアログボックスが繰り返し表示されます。	・コンピュータ背面のＵＳＢ接続を点検してください。 ・eBeam 用の全ケーブルが接続されていることを確認してください。 ・「eBeam検知」ダイアログボックスで選択されいてるポートが適切なポートであることを確認します。 ・本機とコンピュータとの間にＵＳＢ2.0規格のハブが接続されていないか確認してください。本機ではＵＳＢ2.0規格のハブはご使用できません。 ・「eBeam検知」ダイアログボックスから「再試行」を選択します。 ・コンピュータに接続した PDA （Palm または PocketPC デバイス） がありませんか？接続している場合は、COM ポートに接続したままで、eBeam システムの接続を妨げている可能性のある PDA 用プログラム（同期プログラムなど）をすべて終了してください。 ・eBeam ソフトウェアを一旦終了し、再起動してください。 ・本体ＵＳＢポートからＵＳＢケーブルを一旦取り外し、再度取り付け、eBeam アイコンより「システム検知」を選択してください。
ミーティングを主催できません または ミーティングに参加できません	・サーバの設定を確認してください。（「ミーティングを開始」参照）

描画エラー

現　　象	対　　策
専用マーカー、イレーザ、ペンが反応しない	・マーカーホルダー先端の信号発信器を指で触れないでください。信号発信が妨害されます。 ・システム検知を確認してください。 ＜ホワイトボードモードの場合＞ ・eBeamソウトウェアを起動します。 ・「ツール」メニューから「eBeam hardware：ホワイトボードのキャプチャ」を選択してください。 ・「ツール」メニューから「eBeam hardware：検知」を選択してください。 ＜プロジェクションモード場合＞ ・eBeamアイコンをクリックし「プロジェクター使用」を選択してください。 ・eBeamアイコンをクリックし「システム検知」を選択してください。 ・上記の操作を行っても問題が解消しない場合、ボタン電池を取り換えてください。
eBeam画面に表示されるマーカの色がホワイトボード上の描画の色と異なる。	・使用色に対応したホルダーを使用しているか確認してください。eBeamは、実際のマーカの色ではなく、　ホルダーの色を認識します。 ・「ツール」メニューで「eBeamハードウェア：ホルダー設定」を確認してください。必要に応じて「デフォルト復帰」を選択し、全てのホルダーの色をデフォルトに戻します。
ペンの動作と画面にずれがある。または画面に反映されない。	・キャプチャエリア、投影エリアの調整をしてください。
ショートカットストリップが機能しない	・「ツール」メニューで「ショートカットストリップ：調整」を選択して、ショートカットストリップの位置を再調整してください。

おもな仕様

仕様一覧

項目 ＼ 機種		IB-72
本体	外形寸法	(W)1768×(D)600×(H)2008mm (W)1768×(D)600×(H)1858mm
	画面サイズ	(W)1462×(H)1096mm（約72型）
	質量	約30Kg
	両面ボード	ホワイトボード
		映写ボード（プロジェクター専用スクリーン）
	インターフェイス	USB
	入力操作方式	超音波、赤外線
	操作器具	マーカホルダー、イレーザ
	ペン	専用ペン（黒、赤、青、緑）、スタイラスペン
システム環境	パソコン	IBM　PC/AT互換機
	ＣＰＵ	Pentium １００ＭＨｚ以上
	通信ポート	USBポート
	メモリー	32MB以上
	ＯＳ	Windows98/ME/2000/XP
	その他	CD-ROMドライブ

※CPU、メモリ環境は当該OSが稼動していることが前提となります。またメモリが少ない場合、一部の機能に制限があります。

主要部品について

スタンド部	鉄
ＢＯＸ部	鉄
ボード部	アルミ、鉄
センサーカバー	ＡＢＳ

消耗品

お買い上げの販売店または、ウチダコールセンターにおたずねください。

■マーカ

標準ホワイトボード用マーカ

■パッド

イレーザパッド

■電池

リチウムボタン電池（CR2032）

※お近くの電気店、またはコンビニエンスストアー等でお買い求めください。

アフターサービスについて

1. 修理を依頼されるとき

P.25～26の「トラブルシューティング」に従って調べていただき、直らないときには、お買い上げの販売店またはウチダコールセンターに修理をご依頼ください。

2. 保証書

保証書

本書は、本書記載内容により無償修理を行うことをお約束するものです。
ご購入日から下記期間中に万一故障が発生した場合は、本書を提示の上、販売店またはコールセンターに修理を依頼してください。

品　名　インタラクティブボード **IB-72**

保証期間 ご購入の日より	1年間（マーカホルダー、イレーザのみ３ヶ月）

ご購入
年月日

SERIAL NO.

お名前　　　　　　　　　　　　　　　　様

ご住所

電　話

取扱い
店　名

取扱い店
住所/TEL

保証規定

※この保証書は日本国内においてのみ有効です。
Effective only in Japan

1.保証期間内に、取扱説明書・本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で故障した場合には、本書記載内容にもとづき、無料修理いたします。

2.保証期間であっても次の場合は有料修理となります。

(1) この保証書の提示がない場合。
(2) 保証書に、ご購入の年月日、貴社名、お取扱店名の記入がない場合、および保証書の字句を書換えられた場合。
(3) 改造または不当な修理による故障および損傷。
(4) ご購入後の移動、輸送、落下などによる故障および損傷。
(5) 火災や天災などによる故障及び損傷
(6) 消耗品の交換

この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期経過後の修理などについてご不明の場合は、販売店またはウチダコールセンターにお問い合わせください。

3. 補修用性能部品の最低保有期間

このインタラクティブボードの補修用性能部品（機能を維持するために必要な部品）は、製造打ち切り後、最低5年間保有しております。

株式会社 内田洋行

ウチダコールセンター　フリーダイヤル　0120-101-884

ウチダホームページアドレス　http:www.uchida.co.jp/

050R820